

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】 第 1 部門第 2 区分
【発行日】 令和 7 年 3 月 17 日 (2025.3.17)

【公開番号】 特開 2023-133095 (P2023-133095A)
【公開日】 令和 5 年 9 月 22 日 (2023.9.22)
【年通号数】 公開公報 (特許) 2023-179
【出願番号】 特願 2022-170841 (P2022-170841)
【国際特許分類】

A 6 3 H 3/36 (2006.01)

A 6 3 H 3/46 (2006.01)

A 6 3 H 3/52 (2022.01)

【F I】

A 6 3 H 3/36 D

A 6 3 H 3/46 B

A 6 3 H 3/52 Z

【手続補正書】

【提出日】 令和 7 年 3 月 7 日 (2025.3.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】 特許請求の範囲

【補正対象項目名】 全文

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

模型玩具であって、

受け入れ部を有する第 1 連結部と、一端に形成された第 2 連結部とを有する複数の可動軸の基部となる第 1 パーツと、

前記第 1 連結部の受け入れ部に対して回転可能に連結する第 1 接続部を有する第 2 パーツと、

前記第 2 連結部に回転可能に接続される第 2 接続部を一端に有し、他端に第 3 接続部を有する第 3 パーツと、

前記第 2 パーツに対して回動可能に接続される第 4 パーツと、
を備え、

前記第 3 接続部は、前記第 4 パーツに設けられた開口部を介して他のパーツと連結されることを特徴とする模型玩具。

【請求項 2】

前記第 1 連結部と前記第 1 接続部によって前記模型玩具の第 1 可動機構が形成され、

前記第 2 連結部と前記第 2 接続部によって、前記第 1 可動機構とは異なる可動軸を含む前記模型玩具の第 2 可動機構が形成されることを特徴とする請求項 1 に記載の模型玩具。

【請求項 3】

前記第 3 パーツは、それぞれが前記第 2 接続部を有する 2 つの第 3 パーツであり、

前記第 2 可動機構は、一方の前記第 3 パーツの第 2 接続部が前記第 2 連結部に回転可能に接続され、さらに、他方の前記第 3 パーツの第 2 接続部が該第 2 連結部に回転可能に接続されることにより形成されることを特徴とする請求項 2 に記載の模型玩具。

【請求項 4】

前記第 3 パーツは、それぞれが前記第 2 接続部を有する 2 つの第 3 パーツであり、

前記第 2 連結部は第 1 部分と第 2 部分とを有し、

前記第 2 可動機構は、一方の前記第 3 パーツの第 2 接続部が前記第 2 連結部の前記第 1

10

20

30

40

50

部分に回転可能に接続され、他方の前記第 3 パーツの第 2 接続部が該第 2 連結部の前記第 2 部分に回転可能に接続されることにより形成されることを特徴とする請求項 2 に記載の模型玩具。

【請求項 5】

前記第 1 パーツは他端に形成された球形状の第 3 連結部をさらに有し、

前記第 3 連結部は第 5 パーツと接続されて第 3 可動機構を形成することを特徴とする請求項 2 から 4 の何れか 1 項に記載の模型玩具。

【請求項 6】

前記第 1 可動機構は、前記模型玩具の服飾の一部を形成する前記第 2 パーツの可動軸として機能し、

前記第 2 可動機構は、前記模型玩具の股関節の可動軸として機能し、

前記第 3 可動機構は、前記模型玩具の腰関節の可動軸として機能することを特徴とする請求項 5 に記載の模型玩具。

【請求項 7】

2 つの前記第 3 パーツの他端には、前記模型玩具の脚部がそれぞれ接続されることを特徴とする請求項 6 に記載の模型玩具。

【請求項 8】

2 つの前記第 3 パーツの他端はそれぞれ円筒部を有し、

各円筒部が前記脚部の内部に設けられた球形状の接続部へ挿入され、各脚部が前記第 3 パーツに対して回転可能に接続されることを特徴とする請求項 7 に記載の模型玩具。

【請求項 9】

前記第 2 可動機構による前記脚部の回転に追従して、前記第 1 可動機構によって前記第 2 パーツが回転可能であることを特徴とする請求項 7 又は 8 に記載の模型玩具。

【請求項 10】

可動構造であって、

受け入れ部を有する第 1 連結部と、一端に第 2 連結部とを有する複数の可動軸の基部となる第 1 パーツと、

前記第 1 連結部の受け入れ部に対して回転可能に連結する第 1 接続部を有する第 2 パーツと、

前記第 2 連結部に回転可能に接続される第 2 接続部を一端に有し、他端に第 3 接続部を有する第 3 パーツと、

前記第 2 パーツに対して回転可能に接続される第 4 パーツと、
を備え、

前記第 3 接続部は、前記第 4 パーツに設けられた開口部を介して他のパーツと連結されることを特徴とする可動構造。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

本発明は、例えば、模型玩具であって、受け入れ部を有する第 1 連結部と、一端に形成された第 2 連結部とを有する複数の可動軸の基部となる第 1 パーツと、前記第 1 連結部の受け入れ部に対して回転可能に連結する第 1 接続部を有する第 2 パーツと、前記第 2 連結部に回転可能に接続される第 2 接続部を一端に有する第 3 パーツとを備え、前記第 1 連結部と前記第 1 接続部によって前記模型玩具の第 1 可動機構が形成され、前記第 2 連結部と前記第 2 接続部によって、前記第 1 可動機構とは異なる可動軸を含む前記模型玩具の第 2 可動機構が形成されることを特徴とする。

また、本発明は、例えば、模型玩具であって、受け入れ部を有する第 1 連結部と、一端に形成された第 2 連結部とを有する複数の可動軸の基部となる第 1 パーツと、前記第 1 連結

10

20

30

40

50

部の受け入れ部に対して回転可能に連結する第1接続部を有する第2パーツと、前記第2連結部に回転可能に接続される第2接続部を一端に有し、他端に第3接続部を有する第3パーツと、前記第2パーツに対して回動可能に接続される第4パーツと、を備え、前記第3接続部は、前記第4パーツに設けられた開口部を介して他のパーツと連結されることを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

10

【0007】

また、本発明は、例えば、可動構造であって、受け入れ部を有する第1連結部と、一端に第2連結部とを有する複数の可動軸の基部となる第1パーツと、前記第1連結部の受け入れ部に対して回転可能に連結する第1接続部を有する第2パーツと、前記第2連結部に回転可能に接続される第2接続部を一端に有する第3パーツとを備え、前記第1連結部と前記第1接続部によって第1可動機構が形成され、前記第2連結部と前記第2接続部によって、前記第1可動機構とは異なる可動軸を含む第2可動機構が形成されることを特徴とする。

また、本発明は、例えば、可動構造であって、受け入れ部を有する第1連結部と、一端に第2連結部とを有する複数の可動軸の基部となる第1パーツと、前記第1連結部の受け入れ部に対して回転可能に連結する第1接続部を有する第2パーツと、前記第2連結部に回転可能に接続される第2接続部を一端に有し、他端に第3接続部を有する第3パーツと、前記第2パーツに対して回動可能に接続される第4パーツと、を備え、前記第3接続部は、前記第4パーツに設けられた開口部を介して他のパーツと連結されることを特徴とする

20

30

40

50